TOYO EIWA JOGAKUIN
PUBLIC RELATIONS REPORT
No.55
09.02.09

FÛ EN
楓園

CONTENTS

1 — 特集　「東洋英和楓の会」座談会
6 — この人に聞く　岡村理彩
7 — 東洋英和幼稚園 NEWS・かえで幼稚園 NEWS
8 — 小学部 NEWS
9 — 中高部 NEWS
11 — 大学 NEWS
13 — 行事報告　9月～11月
14 — 聖書の言葉・英和探訪
15 — 英和の植物通信・お知らせ

■青空の下で
寒さに負けず元気に大縄で遊んでいます。
小学部

東洋英和女学院

座談会

英和の心をつなぐ「東洋英和楓の会」

わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。
人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。

ヨハネによる福音書　第一五章五節

二〇〇九年四月より本格的に活動を開始する予定の「東洋英和楓の会」。今回は池田理事長・院長をはじめ、会の設立に関わられた方々に、その思いを語っていただきました。

出席者

理事長・院長　池田　守男
副院長　吾妻　國年
副学長　増田　弘
同窓会会長　石川　和子
後援会会長　横山　巖

構成　東洋英和楓の会準備室

「楓の会」の設立とは、初心に帰ること

池田　東洋英和楓の会(以下、楓の会)の設立にあたり、その経緯については、色々な場所でお話しておりますが、本日はもう少し掘り下げてご説明したいと思います。

二〇〇九年は、プロテスタント宣教一五〇年でありまして、わが学院も創立一二五周年という節目の年にあたります。このような節目の年には、初心に帰るということが必要です。ですから、前年である二〇〇八年に、来年を迎える心構えとして、楓の会を発足しておきたかったのです。「初心に帰る」ということは、日本の女性に対して熱い思いを抱いて学院を創立して下さったミス・カートメルに、さらに宣教師達の思いに返ることではないかと思うのです。「初心に帰る」ことは、神への愛であり、隣人愛であり、すなわち学院のモットーである「敬神奉仕」そのものです。この機会に、同窓会や関係諸団体を含めた、広がりを持った組織設立を出発点とすることで、学院と一体となって宣教師達の思いを自分のものとして育てていきたい、これが第一のきっかけです。

二つ目は、今日の経済情勢にも見られるように、利己主義がはびこる社会にこそ、心のつながりが必要です。こういう時代だからミッション・スクールのミッションとして、心のつながりを強くしなければならない。二〇〇八年十一月のキリスト教学校教育同盟学校代表者協議会の講演で最後に触れたことですが、心のつながりを強くすることは、私達キリスト教教育に携わる者全員の使命であります。

例として、同窓会会員は卒業生として学院と関わって下さいますが、後援会員はお嬢様が学院をご卒業なさった後は後援会OBとなって、学院とのつながりは精神的なものはあるにせよ、具体的なものがない。短期間であっても、ご縁があったのなら終生絆を保てるような、そういう組織があってもよいのではないか。例えば東洋英和の男子卒業生は、二～三年間とはいえ学院のキリスト教教育を受けたわけですから、楓の会に入っていただいて今一度学院の精神を思い起こしていただけたらと思うわけです。洗礼を受けている、受けていないは問題ではありません。東洋英和キリスト教精神を各人の生活において、楓の会を通して思い起こしていただくことが、重要な目的なのです。

吾妻　池田先生が、学院の進展の上で組織的に大きな視野から楓の会の必要性をお感じになられたことを、楓の会設立の実務に関わる中で一層理解できるようになりました。先生がおっしゃらなかったことで補足させていただくと、先生は特に院長になられてからは、お忙しい中、教育の現場に足を運ばれ、音楽や合唱など児童・生徒達の姿を目の当りにされて時に涙ぐんでおられることがある。東洋英和教育のスピリットに触れて、そのスピリットと感動を学院の中だけでなく、広く外部の方々へ伝えたいという思いに発しているのではないでしょうか。

さて、これからは設立までの経緯についてお話をいたします。以前にも楓の会のような組織を作った方が良いという声

「こういう時代だから、心のつながりを強くしなければならない」

池田守男　理事長・院長
香川県高松市に生まれる。東京神学大学神学部卒業。資生堂に入社、社長・会長を歴任し現在は相談役。公益認定等委員会委員長、教育再生懇談会委員、東京商工会議所副会頭など公職多数。2005年東洋英和女学院理事長就任、2007年同院長就任。2006年「新渡戸・南原賞」受賞。著書に『サーバント・リーダーシップ入門』（共著）がある。

「大きな楓の木の幹に、私達が連なっているのです」

吾妻國年　副院長
東京都に生まれる。東京神学大学大学院を修了。1972年より本学院中高部教諭、聖書科担当。日本基督教団教務教師。2000年より高等部部長。高等部部長退任後は2007年副院長に就任。長年にわたる学院での経験を活かし、「東洋英和楓の会」をはじめとする学院全般の業務に関わる。

がなかったわけではありません。しかし、池田先生が今回決然と楓の会を作りなさいと指示をされた後、昨年の九月以降、湯浅慶法人事務局長と準備して、石川和子同窓会会長、横山巌後援会会長、富田浩安前後援会会長とご相談したところ、「今こそ東洋英和が内容的にも組織的にも大きく発展する時でしょう」との前向きのお言葉を頂戴しました。また、同窓会内の活動団体からも、「是非そうした組織を作って欲しい」という賛同のお言葉を多数いただきました。これが大いに励みとなり、二〇〇八年一月よりの四度にわたる準備会議を重ねた結果、同年五月の理事会・評議員会にて会の発足が無事承認されたのです。ご協力いただきました方々には感謝しております。

ミス・カートメルの思いと「楓の会」

増田　ミス・カートメルが鳥居坂に東洋英和女学校を開いたのは、明治一七年ですが、その年はちょうど鹿鳴館（ろくめいかん）ができた年なんです。当時は欧化主義一辺倒でして、それに対し国粋主義的な勢力が反発するといった時代背景の中で東洋英和がスタートしたわけです。池田先生がおっしゃったように、キリスト教精神を広めたいというミス・カートメルの使命感があったことはもちろんですが、なぜ「女学校」であったのか、その辺りにミス・カートメルの強い思いがあったのではないかと思うのです。江戸時代の終焉からまだ十七年しか経っていない明治という新しい時代に、ミス・カートメルは女性の社会的位置づけ、役割に着眼していたといえるでしょう。それは表層的な欧化主義ではなく、かといって偏狭なナショナリズムでもない、第三の道を模索するという高い目標と情熱をお持ちだったのではないかと推察します。楓の会も二十一世紀の日本の女性のあり方とは、という広い視野に立って考えていくべきでしょう。

大局的な話から、微視的な話になりますが、大学の同窓会（楓美会）が楓の会とどのように関わっていくのか。大学は

来年で創立一二〇周年を迎えます。学院創立一二五周年には及びませんが、大学は中高部より学生の年齢層も高く、入学募集も全国規模であり、キャンパスは横浜、というように六本木とは趣を異にした文化を形成しています。私がかつて学生部長であった時、同窓会と大学との関係について考えざるを得なかったのは、私の出身大学では卒業生の愛校心が強く、物心両面の支援を大学にしているからです。楓美会も卒業生が七千人を超えることとなり、どのような役割をはたすべきかを模索する時期に来ているように思います。

米国の大学では、卒業生が大学に対して運営面や教育面で助言するばかりではなく、財政面で大きな支援をしています。大学だけでなく、一流といわれる学校は、常に同窓生が支えているのです。楓の会が発足したことは、これらのことを考える良い機会となるでしょう。

東洋英和を愛する人々によって生み出される大きな力

石川　増田先生が楓美会についてお話し下さいましたが、高等部と短大の同窓会は創設百年以上の歴史があります。東洋英和女学院同窓会は歴史の異なる六つの各部同窓会（注・高等部、短大三会、大学、大学院）で構成されており、各々が違った個性を持ちながらも学院同窓会として共に歩んでおります。本日私は全体同窓会の立場からお話しさせていただきます。

先輩達が築いて下さった東洋英和の素晴らしい精神と伝統を受け継いで次世代に伝えていくことが同窓会の重要なお役目であると思っております。

女子校の場合卒業後しばらくは、就職、結婚、子育て等でめまぐるしく生活環境が変化しますので、多くの方は同窓会に関心を持つゆとりがないのが現状かと思います。私自身も同窓会と関わって母校の事を考えるようになったのはごく最近、十五年位前からです。その時、地道な素晴らしい働きをされている卒業生達が沢山いらっしゃることに驚きました。又、目立たない所で英和をずっと支えて下さっている卒業生グループの存在を知って、改めて「英和は何て素晴らしい学校なのかしら」と思いました。そのような方々の事を、是非皆様に知っていただきたいと思います。楓の会発足により、英和の素晴らしさがもっと幅広く、多くの方々にお知らせできる事を期待しております。

また、池田先生が楓の会をミッションスクールとして、社会へのミッションを持つ会となる事を考えていらっしゃるのに、とても感動しました。英和の精神を卒業生だけが継承するのではなく、周囲にも伝えていく事ができればと思います。

横山　これまで楓の会については、父親達にとってありがたいお話であるという程度の印象でした。しかし、先ほどの池田先生のお話から、私には計り知れないほど深い意義と幅広い使命があるのだとあらためて認識させられました。

ここからは父親という立場からお話いたします。たとえば野尻キャンプサイトのオープニングの準備だとか、クリスマスコンサートの混声合唱などは、後援会会員である父親のみならず、後援会ＯＢが多数参加して下さいます。ただし、ＯＢの皆様はお嬢様がご卒業されてしまうと、父親自身は東洋英和に何か貢献したいと感じているのに、次第に遠慮が先に立ってしまうのです。

しかし、楓の会が設立されましたら、直接父親自身が学院とつながりを持て、遠慮することなく行事に迎えていただけるということを、今来て下さっているＯＢにメールでお知らせしましたところ、二〇人くらいの方々より是非入会したいという返信がありました。ＯＢとなって年数が経っている方々も、掘り起こしていけば入会希望者が増えるのではないでしょうか。

一方、現役の後援会会員も、お嬢様卒業後に楓の会に入会すると宣言されている方が多くいらっしゃいます。つまり、今後ＯＢとなられる方は、相当の率で楓の会に入会するのではないかということです。私も二年後にＯＢになりますが、その間にできるだけ多くの後援会員に

「一流といわれる学校は、常に同窓生が支えている」

増田　弘　副学長
神奈川県に生まれる。慶應義塾大学大学院を修了。1990年より東洋英和女学院大学国際社会学部教授、日本外交史・外交論担当。2001～04年学生部長。2005～06年平和祈念事業特別基金理事長。2008年より現職。編著書に『石橋湛山』『公職追放論』などがある。

楓の会について伝えていければと思います。いずれは父親達も学院を支える大きな力になるでしょう。

「楓の会」がめざすもの

池田　楓の会は、同窓会、母の会、父の会、東洋英和幼稚園男子卒業生、あるいは、卒業生のご主人など、英和に縁があれば幅広く会員になっていただき、内外に英和のキリスト教精神が発信できれば良いと思います。けっして肩肘を張るのではなく、自然な形で一緒に支えていただければありがたい。また、多くの方々につながりを持っていただけるよう、学院としても働きかけて参りたい。事務的につながるのではなくて、自主的につながることが理想です。

増田先生のお話にもありましたように、現代社会は明治からかなり時間が経っているのにもかかわらず、いまだに男女共同参画などを政府自らが考えざるを得ないような社会構造になっています。女性がもっと社会進出をして、活躍していただければ日本の社会はさらに元気が出てきますし、明るくて豊かな国になると思っています。幸いなことに英和は女性中心の学校ですから社会や家庭において英和の卒業生が溌剌と活躍できるよう、社会に発信するよう努めて参りたい。

吾妻　学院に関係する数多くの諸団体は、各々活発に良い活動をされていますが、皆ある種孤立していますよね。このような団体が同窓会とつながり、各組織と固有の活動を続けながら有機的に学院内外で英和に心を寄せて下さる方々とも交流を持つ楓の会では、さらにそれからの活動が生かされていくと思います。

石川会長より楓美会の幹部が徐々に同窓会の重要な役割を担ってくれているとお聞きしましたが、このように楓の会も心を寄せ合っていけば、素晴らしい活動ができるのではないでしょうか。

石川　現在、大学院の同窓会も、学院同窓会と良好な関係にあります。大学院修了生は、社会でお仕事をされているので、年齢も高く、力もあり、経験も豊富ですので、期待しております。

池田　そういえば同窓会の会合に男性も出席する方が増えているそうですね。

石川　はい。今年の同窓会クリスマスには、楓美会会員のご主人様がご出席下さいまして、机を片付けたり、力仕事をして下さいました（笑）。おかげ様で助かり、会も良い雰囲気になりました。

増田　石川会長のおっしゃる六つの同窓会を束ねることは、本当に大変なことだと思います。各会が独自性、伝統を大事にしながらも、大きな視野に立ってアクションを起こすために共通の目標を持って進んでいこうという気運が生まれてこないと、組織を維持することはなかなか難しいと思うのですね。

英和には、応援団が沢山あります。後援会をはじめとして、奥様が卒業生であるご主人とか、私もその一人ですが（笑）、お孫さんが英和に通っていらっしゃる方とか、いわゆる「英和的なるもの」に愛着をお持ちの方が相当いらっしゃるわけです。今までそういった方々に対し、学院が働きかけをあまり積極的にしなかった。楓の会の発足は非常に良い機会です

「英和の良さとは、まさしく"凮"のようなものです」

石川　和子　同窓会会長
兵庫県神戸市に生まれる。1957年東洋英和女学院高等部卒業。1962年東京女子大学文理学部卒業。1997年東洋英和女学院高等部同窓会東光会副会長。同会長を経て2002年より現職。

「いずれは父親達も学院を支える大きな力になるでしょう」

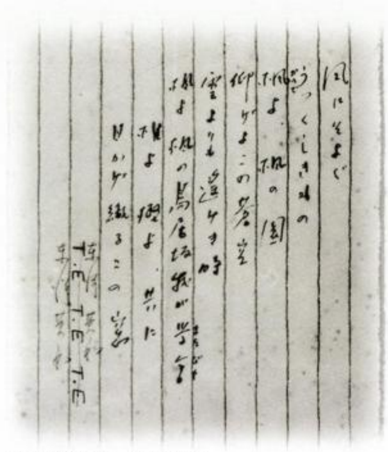
横山　巖（いわお）　後援会会長
静岡県に生まれる。1976年慶應義塾大学経済学部卒業。2001～03年度後援会高等部役員。2005年度より現職。現在、ご息女が東洋英和女学院大学に在学中。

から、都会的でありながらしっかりした保守性を備えた「英和的なるもの」という価値観を、多くの方々に共有していただきたいと思います。

横山　英和の精神といいますか、現在の日本に欠けている「徳育」のようなものが、学んでいる子供達と同窓生だけでなく、その家族などを含めた広い輪となっていいます。その精神でつながった楓の会に、やがては父親ＯＢになる私も歓迎されて入れていただけ、一生英和とお付き合いができるのはうれしい限りです。

「英和の良さ」と「風」

吾妻　楓の会の名前の由来についてですが、名前を決める上で、一五から二〇くらいの案がありました。最終的に「楓の会」に決まったのですが、私のイメージでは、大きな楓の木があってその幹に私達が連なっているのです。かつて故石井次郎院長が「楓の木には、甘いメイプルシロップが出てきているが、これは、神の愛の象徴であり、それに与る私達のお互いへの思いやりを意味している」とおっしゃったことを思い出すのです。「楓の会」という名前にどうして決まったのか。不思議とこれになりましたが、とても良い名前であると思います。


校歌直筆原稿　北原白秋作

池田　楓の会のパンフレットのために、「楓の会」という文字を毛筆で書いて下さいと頼まれて、休日なのに二〇遍くらい習字をしたのですが（笑）、書いているうちに「楓」という文字は、木へんに風だと気づいたのです。なぜ「風」なのかということですね。

石川　「楓の会」というネーミングは、ぴったりだと思います。先ほどから「英和の良さ」が話題となっておりますが、「英和の良さ」とは、まさしく「風」のようなものです。形はないけれども風のように皆の間に吹き抜けている、それがすごく良いのですね。その風が吹くと瞬く間に皆仲良くなれます。

池田　「風」というのは、良い例えですね。

石川　「英和の良さ」は具体的に人に自慢出来るものというより一人一人が心の内に持ち続ける一生の宝物だと思っております。

横山　校歌の「風にそよぐ」という感じでしょうか。

池田　北原白秋も英和の「風」を感じられたのかな。あの格調高い歌詞に「風」が入っているのは、興味深いですね。

吾妻　話題は変わりますが、今までのお話によると楓の会は非常にスケールの大きい組織であると思います。他の学校の同様な組織とは趣を異にしているようですが、楓の会という組織は、どういう位置づけなのでしょうか。

池田　はっきりしていることは、「第二の同窓会」というようなものにはしたくないということです。やはり「風」ですね。皆さんの周りで吹き渡り、染み透り、自然な形で根付いていく。

石川　わかりやすく言えば、今までは家庭において母親だけで頑張ってきたのが、これからはお父様やおじい様が助けて下さる。そんな雰囲気を感じます。「第二の同窓会」ではない、豊かで大きな支えといえるのではないでしょうか。

池田　家族という言葉が相応しいですね。ＮＨＫの大河ドラマ「篤姫」にも「家族」という言葉が何度も出てくる。

増田　今の時代に希薄化しているために、何度も出てくるのでしょう。

吾妻　卒業生だけでなく、家族全員のための楓の会であると言えそうですね。

増田　後援会関連の行事に出席しますと、お父様方のパワーに驚かされます。お嬢様のご卒業後にも、この情熱が生かされないともったいないですよ。

横山　父親は卒業生と同じ数いるはずですから、同窓会と同じ程度の組織として定着するかもしれませんね。

池田　今回の座談会では、私の楓の会への思いを語らせていただきましたし、ご出席の皆様より貴重なご意見もいただきました。おかげ様で方向性は見えてきたようなので、後は具体的な活動について、これから検討していきたいと思います。本日はありがとうございました。

この人に聞く……5

制服からファッションへ

一九九二年　高等部卒業
一九九六年　人文学部人間科学科卒業　岡村 理彩

おかむらりさ
ファッションエディター。一九九六年（株）三井住友海上火災保険、本社総務部入社。勤務の傍ら文化服装学院で学ぶ。二〇〇一年国立ロンドン芸術大学、ロンドン・カレッジ・オブ・ファッション（LCF）にてファッションジャーナリズムを専攻。渡仏し、ファッションジャーナリスト、故・藤井郁子氏に師事。帰国後、「WWDジャパン」「ファッションニュース」「流行通信」を経て現在に至る。

編集者の仕事に就いて

「あ、今日から英和は冬服に変わったんだ」。会社が西麻布ということもあって、英和生をほとんど毎日のように見かける。今の仕事から来ている癖なのだろうか、「制服」であったとしても、やはり服を見るのは楽しい。しかもそれが、自分自身が誇りを持って着ていたものであったらなおさらだ。

私は今、ファッションを中心とした編集の仕事をしている。海外のコレクションから東京のコレクション、展示会、デザイナーなどを取材する。また、それだけでなく、今の時代はアートから食に至るまで幅広い分野で「ファッション」というフィルターを通して表現されているものも多いので、服以外でも様々なことを取材する。

楽しかった東洋英和とファッションへの道

東洋英和の中高時代を振り返って見ると、好奇心はとても旺盛だったように思う。演劇部にいた時は、舞台づくりに明け暮れ、運動会では応援団に入り、野尻には毎年行き……。面白そうなことにはすべて飛びつき、そして、徹底的にその面白さを味わっていた。そんなことが可能であったのは、英和の校風が伸び伸びとしていて、寛容であったからだと思う。また、それは大学に入っても同じだった。社会心理学を始め、自分が興味を持つ学科を徹底的に勉強できた事で、ジャーナリズムを始めとする、マスコミという分野を目指したいと考えるようになった。そうは言っても志望職種が漠然としていたため、一社合格をもらった住友海上火災保険（現・三井住友海上火災保険）、本社総務部に五年間勤務した。今の編集者という仕事から、とてもかけ離れているように見えるが、自分にとってこの五年間は、社会人として必要なことを一から学んだ有意義なものであった。またその一方で、マスコミに対する思いは変わることなく、それは時を重ねるにつれ、ファッションを中心にワールドワイドに仕事がしたいという明確なものへと変化していった。もともと、母がファッション関係の仕事をしていたこともあり、物心ついた頃からきれいな服を見るのが好きだった。英和に入るきっかけも、「制服が品が良く洗練されていて、どうしても着たいから」ということだった。高校に入ると、ファッション写真にも熱中し、洋書屋に通っては、海外のファッション雑誌を買うのが何よりも楽しみだった。

多くの人との出会いと感謝

明確なヴィジョンが見え始めた入社四年目あたりから私は受験勉強を始め、社会人五年目の年に、ロンドンの大学に合格した。ファッションジャーナリズムを中心に、ファッションにまつわるあらゆることを学んだ約二年。全世界から集まる学生達と同じ時間を分ち合い、苦楽を共にしたのは、今の自分の大きな支えとなっている。そんな心の支えはもうひとつある。パリで三五年間ファッションジャーナリストとして活躍した、元・文化出版局パリ支局長である故・藤井郁子氏だ。高い審美眼を持ち真摯にモードと対峙する彼女に昔から憧れていた私は、ロンドンの留学生活の後、押しかけで弟子入りを志願し、アシスタントとして働かせていただいた。フランス語を学びながら、モードの最高峰とも言えるパリコレクションを通して、経験を積んだ事は、これから先も一生の宝物だ。

パリから帰国後、いくつかの媒体を経て、現在、私はファッションジャーナリスト、大内順子氏が監修する「ファッション通信」というテレビの仕事を中心に編集者として働いている。取材した事を、紙媒体にまとめるのとは一味違う新たな分野だが、英和時代に培った「限りない好奇心」を持って楽しんでいる。

スペイン、バレンシア在住の親友の結婚式に家族の一人として出席した時のもの

ロンドンでのシューティング（撮影）で、現地のスタッフと。前列中央は「メルシーボークー、」デザイナー宇津木えりさん

ぎんなん献金ができるまで

1 今年は数年ぶりにたくさんのぎんなんが実りました

2 一粒ずつ箸で皮を除いて中身を出します

3 殻についている汚れをお母様方と一緒に洗い流しました。きれいになったら陽にあてて、乾かします

4 お母様方も七輪で煎ってくださいました。「パチン」と殻がはじける音が聞こえたら食べ頃です

5 ぎんなん献金用にカップ一杯のぎんなんをビニール袋に入れ、輪ゴムでとめます

6 献金はACEF(アジアキリスト教教育基金)を通じ、バングラデシュの子どもたちに寺子屋を建てるために使われます

おかあさんになりたい—ままごとをする子どもたち—

かえで幼稚園では、毎日、ままごとをする子どもたちが見られます。子どもたちの姿から、その背後にある家庭の温かさと共に「おかあさん大好き」という気持ちが伝わってきます。ある日の三歳児の姿です。

「おんぶにして」と言って、人形をおぶい紐で背負わせてもらいます

「ごはんどうぞ」と赤ちゃんのお世話をする子ども

「ここをおうちにしよう」と場所を決め、2・3人集まってままごとを始めます

「赤ちゃんがうまれたね」と言って喜んでいる子どもたち

「さあたべよう」と言う、おとうさんとおかあさん

「ピザどうぞ」とエプロンをつけたピザ屋がやってきます

校外学習「秋を見つけたよ」

一年生の生活科では、「秋をさがそう」という学習があります。毎年、近隣の公園まで行っておりましたが、今年は、赤坂にあるアークヒルズ内の庭園で、たくさんの草花とふれあう機会をもつことができました。ただ観察するだけでなく、掘ったり切ったりする活動まで十分にさせていただき、ますます植物を身近に感じることができました。

一年生の感想文より

わたしは、一年生のみんなと、アークガーデンにいきました。アークガーデンは、すごくとおかったです。わたしは、アークガーデンのみなさんに、

「おはようございます」

と言いました。アークガーデンのみなさんも、「おはよう」と言いました。

それから、みんなで一かいにいきました。二しゅるいのコースがありました。一つ目のコースは、ハサミでお花をきるコースで、二つ目のコースは、シャベルでお花をほるコースでした。一組は、先にハサミでお花をきるコースでした。わたしは、白のジニアをえらびました。どうしてかというと、わたしは五まいの花びらと色がすごく気に入ったのでえらびました。

おねえさんが、

「ひめりんご、一ことっていいよ」

といったので、ひめりんごをとりました。おねえさんは、

「今食べてもいいし、おうちで食べてもいいよ」

といいました。わたしは、おうちで食べることにしました。あちらこちらから、

「ひめりんご、すっぱい」

というこえがきこえました。

上のかいにいきました。わたしは、ペンタスをえらびました。どうしてかというと、一このところにたくさんお花がついていたからです。

わたしがかえりに、

「たのしかったです」

といいました。そしたら、おねえさんがタッチをしてくれました。すごく楽しかったです。

二年生の生活科では、「野菜を育てよう」という学習で、さつまいも掘りに行きました。仙川にある農園で苗から育てていただいたさつまいもを収穫し、その後、学校の落ち葉を使ってやきいも大会をしました。

二年生の感想文より

おいもほりでは、さいしょは小さいおいもでしたが、つぎは中くらいでした。そのつぎは、ほってもほってもなかなか出てこないから、もうあきらめようとして、さいごに少しだけほってみました。そうしたら、赤むらさきのものが見えて、よくほってみると、おいもでした。よくよくほってみると、土の中からおいもが出てきました。とってもうれしくてとってみたら、大きな大きなおいもでした。

わたしが先生たちにそのおいもを見せると、びっくりしていました。先生が

「大きいおいもとったね」

と、言ってくれたので、わたしもうれしかったです。

てくてく歩いてながののうえんにつきました。ながのさんは、とてもやさしくおいものほりかたをおしえてくれました。おいもばたけの土はやわらかくて、おだんごがつくれそうでした。

ながのさんは、つるからほりはじめるとおいもが出てくると言っていたので、つるからほりはじめるとさっそく、大きなおいもが出てきました。なんこほれるかが、楽しみになりました。ほっていくうちによう虫が出てきてびっくりしました。

しゅうかくしたのは三つでした。どれも大きいおいもでした。

母の会バザー：お母様方の手作り品も販売

家庭科（高２）：浴衣

軽音同好会：いくつかのバンドが演奏

茶道部：みなさんにお点前を披露

ダンス部：「リトルマーメイド」を公演

テニス部・バスケ部：招待試合

器楽科：オーケストラで「美女と野獣」を演奏

天文部：自分達でプラネタリウムを設営

生物部：光合成ペンダント作成中

料理部：手作り煮込みハンバーグでおもてなし

中高部

楓祭を振り返って

楓祭実行委員長　野田　祥子

第40回楓祭は人それぞれが持っている個性が上手く折り重なり一つのものを創り上げている、私たち英和生の「活気溢れる中にある美しさ＝麗（うるわし）」を表現したいと思い「麗」をテーマとして行われました。

楓祭までの約半年間は目が回る程忙しく、私は毎日のように連絡やプリント作りで校内を走っていました。楓祭が近づくにつれ、成功するか否か、ミスはないかなど緊張と不安で押し潰されるような思いでしたが、その反面、少しずつ着実に出来上がっていく私たちの楓祭に胸が高鳴り、疲れていた私の心も癒される思いがしました。結果は、沢山のお客様を迎えることが出来、楓祭は大成功のうちに終えられたと思います。辛い事もありましたが、私自身が大きく成長できたと思います。最後に、楓祭を成功させるために支えて下さった先生方をはじめ、関わった全ての皆様、そして神様に感謝致します。

楓祭を終えて

生徒会長　浅野　晴加

今年の楓祭は、第40回目ということ、また生徒会長という責任ある立場で行動しなければならなかったので、例年より一層気合が入りました。楓祭当日の私の仕事は、校内見回り・すいーつばたけのクッキー販売・学校案内ツアーでしたが、校内見回りの仕事では、楓祭全体の雰囲気を感じることができました。各フロアに様々な装飾が施されていてとても華やかでした。なんといっても、英和生がそれぞれのクラブで一生懸命活動している姿、お客様への丁寧な対応や小さな子ども達に優しく接する姿は、まさに今年のテーマである「麗」そのものであったと思います。

それから、お父様方の警備やお母様方の食品部門やバザーのご協力など、楓祭は大勢の方々の細やかな色々な支えがあってこそ成立するものだと改めて実感しました。本当にありがとうございました。

第40回 楓祭 ―「麗」―

10月24日（金）・25日（土）の2日間、楓祭が開催されました。今回は記念すべき第40回ということで、生徒達もより充実したものにしようと頑張っていたようです。来場者数は、初日の大雨にもかかわらず2日間で合計7,000人を超えました。テーマは「麗」（うるわし）。アーチやプログラムのデザイン、校内の装飾など、ご来場下さった方にはどこかに「麗」さを感じていただけたと思います。盛り上がった2日間をご紹介いたします。

プログラム

中
高
部

楓祭実行委員会チーフ達：「麗」のポーズで集合

アーチ立ち上げ：うまく立ち上がりました

学校ツアー：受験生の方に大変喜ばれました

ワンダーフォーゲル部：展示やゲームなど楽しく盛り上がりました

YWCA：ユニセフカードなどの販売をしました

美術部：今年はアリスの世界を表現しました

華道教室：それぞれの力作を階段の踊り場に展示しました

家庭科（中3）：布絵本

写真部：ひとりひとりテーマを決めて写真を撮りました

「国内外歴史文化研修」で学生十一人がデンマークに

人間科学部教授　川崎　末美

二〇〇七年度カリキュラム改革によって人間科学科に「人間文化専攻」が設置され、国内外歴史文化研修を実施するようになりました。その研修先の一つが「幸福度世界一」といわれるデンマークです。

この研修では、同国の成人教育機関の一つであるInternational People's College（略称IPC　共通言語は英語）のサマーコースに参加してデンマークの歴史・文化・社会について学びますが、世界中から集まった学生達との異文化交流も醍醐味です。特設の英和生向け英会話クラスもあります。二〇〇八年度は人間文化専攻以外の学生を含む十一名が参加し、それぞれが貴重な体験をして帰国しました。学生達の声をお届けします。

自分の可能性に気づかせてくれたデンマーク

人間科学科・人間文化専攻二年　原　あかり

デンマークという言葉の響きには、以前から魅力を感じていた。生活満足度が世界一と言われるその国への憧れは、大学に入り自分の興味がある教育制度について学ぶ中で、非常に大きなものとなっていた。今回現地を訪れ、実際にその空気を肌でダイレクトに感じることができたのは、幸せなことであった。おだやかな時の流れの中で、人と人とが真摯に向き合う確かさがそこにはあった。人々が生き生きと生活する核となるのは、幼いころより植えつけられる「自立」の二文字である。勿論生活する人々の努力もあるが、デンマークは国全体でそれを支援する環境を整えていた。

今回の研修で、自分はまだまだ子どもでこれからいくらでも可能性があり、学ぶ機会は自分が望む限り作り出せることを痛感した。二〇歳という節目の年を前に、このような貴重な経験ができたことを感謝したい。

オランダやポーランドにも友達ができたデンマーク研修

人間科学科・人間文化専攻二年　二宮　史恵

デンマークでの経験は私の宝物である。英語の授業は非常に充実し、「他国の学生へのインタビュー」などの宿題を通して様々な国の友達ができた。プリントの宿題の際は、他の国の友達が親切に教えてくれた。英語の世界で過ごすことに不安であったが、気がついたときには英語への抵抗感と不安は一切なくなっていた。最後の日には別れるのが辛すぎるほど他の国の友達との絆は深いものになった。

この研修の最大の魅力は国際交流だといえるのではないかと感じた。私が最も交流を持ったオランダとポーランドの女性とは、帰国後も連絡を取り合っている。彼女達との英語でのメールのやり取りが、私にとって最も良い英語の勉強である。二度と同じメンバーでIPCに集まることはないが、かけがえのない繋がりを得ることができた。この研修に参加できたことを誇りに思う。

異文化交流を通して改めて「日本」を知りました

国際社会学科四年　戸倉佐希子

初めてヨーロッパに行った私には、家や街ひとつとっても見慣れないものばかりで、デンマーク研修は驚きの連続でした。コペンハーゲンに見学に行った時、写真を撮っていると「どうしてそんなに写真ばかり撮っているの」と、ヨーロッパ圏から参加した学生に聞かれました。彼らにとっては、国は違っても見慣れた風景なのだと、改めて日本とヨーロッパとの文化の距離を感じました。

また、日本が好きで日本のことをよく知っている参加者が多かったことにも驚きました。アニメやマンガ、小説の話ではとても盛り上がりましたし、話すのが楽しくなるほどに、私が話すこと一つ一つに興味を持ってくれました。

学生生活最後の年にこのような素晴らしいプログラムに巡り合え、本当に幸せに思っています。お世話して下さった先生方、職員の皆様に感謝しています。

長時間の会話もできるようになりました

国際社会学科三年　澤田花菜子

IPCの共通言語は英語です。初めは会話が成り立ちませんでしたが、英会話のロッド先生に会話に入っていくコツや、会話を続けるコツを習い、「外国の人にインタビューする」という課題に取り組んでいるうちに、また、フリータイムに外国の人とバドミントンや玉突きなどで遊んでいるうちに、いつの間にか話のキャッチボールができるようになっていました。相手の人が分かりやすい言葉で話してくれ、私が伝えたいことを真剣に聞いてくれたということにもよりますが、九〇分以上も会話が続いた時には大きな喜びと達成感がありました。

こうした経験を通して、英語でコミュニケーションをとる自信がつきました。今も彼らと連絡を取り合い、生きた英語を学び続けています。

異国の友人達との合言葉は“I believe you !”

人間科学科三年　花木　舞

デンマーク研修は私の人生において格別なものになりました。IPCでは、二〇ヵ国から集まった六〇人の学生達と共同生活をしながら一緒に学びいろいろな話をしました。

最初はとても大変でした。授業についていけるかという不安もありましたが、何より英語でコミュニケーションをどうとれば良いかがわかりませんでした。しかし、私が話そうとすると相手は必ず聞いてくれました。最初は英語の発音が通じずノートに単語や絵を描いて会話をしていましたが、すぐにノートが要らなくなりました。話題が尽きず、朝方の三時まで話し込んだこともあります。

三週間の研修が終って別れる時はとてもつらく、涙が止まりませんでした。でも、一生会えないわけではありません。私達は“Good bye”ではなく“See you”といって別れました。私達はいつか必ず会います。私達の合言葉は、I believe you !

Family Martとのコラボ弁当

国際社会学部四年　池本　綾子

二〇〇八年一〇月二七日、「東洋英和女学院大学料理部プロデュース」というロゴが入ったキーマカレーが、Family Martの店頭に並んだ。商品を手に取った時の嬉しさ、沢山の方々に「おいしかった」と言って頂いた時の喜びは、今でも忘れられない。

私は友人と二〇〇六年に「料理同好会Blueberry jam」を立ち上げた。翌年には料理部に昇格。「自分達で商品を発売してみたい」という夢があった。いくつかのコンビニエンスストアに企画を送り、「Family Mart」様が興味を持って下さり、関東圏でお弁当を発売出来ることになった。採用されてから試作品プレゼンまでは二週間しかなく、毎日のように試作品開発に明け暮れた。冷めてもおいしい味付けにするなど、沢山の課題を目の当たりにし、「料理を作る事」と「商品を作る事」の違いを深く理解できた。初めは無謀な夢だった商品発売も、行動に起こせば学生支援課の方々などのご協力を得て実現した。

この貴重な経験は私の宝だが、英和の後輩達には、さらに高い目標に向かって何事かを成し遂げて欲しいと思う。

チアダンス 世界大会で三位獲得！

国際社会学部四年　土屋　恵美

私はチアダンス大学・社会人クラブチームSILVER WINGSに所属しています。

今年の三月に日本で開催されたUSA Nationals in Japanという大会で部門優勝し、四月にフロリダ州ディズニーワールドで開催されたUSASFという世界最高峰のダンス大会の出場権を獲得しました。そして日本人代表としてこの世界大会に出場し、USASFインターナショナル部門第三位を受賞しました。

世界大会で演技をすることができ、大変光栄でした。大会では、出場選手やお客さん達がお互いに「頑張って！」「よかったよ！」という言葉を掛け合ったり、応援し合ったりして、本当に素晴らしいなと思いました。チアの世界では、他の競技と違って、自分のチームだけでなく、相手のチームを応援することに特徴があります。これこそチアスピリットです。

チアダンスを続けて、今年で一〇年目になりますが、これらの経験を活かし、これからもダンスを続けていきたいと思います。

四年生による二年生のための「お話会」

人間科学部准教授　星　順子

一〇月一五日一時限目、「保育実習指導」で、二年生はいつもと違う教室の様子に驚きながら四年生の「お話会」の開催を待ちました。

三度目の保育実習を保育所で行った七名の四年生は、絵本や紙芝居、素話（すばなし）などを楽しみながら行うことのできる学生たちでした。そこで、是非とも後輩の手本になってもらおうと、授業の一コマを彼女らに担当してもらったのです。当日のプログラムでは、それらに手遊びを加えて実践してもらいました。

「声の大きさやトーン・速さの違いで登場人物を表現していた」「舞台を使った紙芝居の印象が新鮮で、紙の抜き方による演出が面白かった」「素話は目を見ながら話してくれたので、物語のイメージが目に浮かんだ。自分も練習して先輩たちのように上手になりたい」等の感想が寄せられました。また、保育経験のある社会人編入の学生からは、四年生へのアドバイスももらうことができ、四年生にとっても有意義な経験となったでしょう。

最終講義と茶話会のおしらせ

短期大学時代より、長年東洋英和の英語教育にご尽力くださった伊勢紀美子先生・太田良子先生・新冨英雄先生がこの三月で定年退職されることになりました。伊勢先生は、なんと四〇年も勤められたことになります。そこで、英文科卒業生が中心となって先生方に最終講義をお願いし、お引き受けいただきました。左記の日時で行われますので、参加を希望される方は、最終講義のご案内ホームページ（http://www.tellme3.com/eiwa）からお申し込みいただくか、ガーネットハウス横浜（電話045-922-9797）へお問い合わせください。

なつかしい先生方の最終講義と茶話会にぜひお誘い合わせの上ご参加ください。参加できない方は、ぜひホームページの「先生方へのメッセージ」に書き込んでください。頂戴したメッセージは一つにまとめて先生方にお渡しいたします。また先生方に記念のアルバムをお贈りする予定ですので、当日お手持ちの写真あるいはネガをお借りできればと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

発起人一同

●日　時　二〇〇九年二月二十一日（土）
　一三時〜一七時
●場　所　東洋英和女学院大学横浜校地
●参加費　一〇〇〇円
●スケジュール
　講義　一三時〜一五時
　茶話会　一五時〜一七時

東洋英和幼稚園

父と遊ぶ日

●祖父母の会　9月26日(金)
今年は年長組が考えた魚釣り、マッサージ、チャイ屋さん、植物園やお母様方による布の絵本、ハンドベル演奏、手作りお菓子を祖父母の方々に楽しんでいただきました。

●父と遊ぶ日　10月18日(土)
ひよこ組・年少組の父子が体を動かして過ごしました。お父様方の迫力ある綱引きは子ども達も大喜びで応援しました。

●創立記念日礼拝
11月6日(木)
年長組は中高部メモリアルチャペル、ひよこ組・年少組は幼稚園ホールにて母子で礼拝を守りました。

●りんご園遠足　11月14日(金)
年長組が上田市の山口りんご園に出かけました。暖かい秋晴れの中、楽しい時を過ごしました。

大学付属 かえで幼稚園

追分キャンプ ―新幹線、信濃鉄道を乗り継いで追分に出かける子どもたち―

●五歳児追分キャンプ
9月3日(水)～5日(金)
神様のみ守りと多くの方々の祈りに支えられ、二泊三日のキャンプを穏やかに楽しく過ごしました。

●四、五歳児ファミリーデー
10月18日(土)
大学のグラウンドで、子どもたちの家族が集まって、身体を動かすことを楽しみました。

●三歳児オープンデー
10月20日(月)
三歳児だけの広々とした園内で、親子がふれあって、砂遊びや木工やかけっこをしました。

●創立記念日礼拝・音楽会
11月6日(木)
礼拝では、宣教師の先生方のお働きを聞き神様を讃美しました。音楽会ではコーラスサークルのお母様方の歌声を楽しみました。

小学部

6年修学旅行

●六年修学旅行
9月23日(火)～26日(金)
北海道の自然や文化にふれ、環境についての学びを深めました。

●遠足　10月9日(木)
低学年…代々木公園
中学年…多摩動物公園
五年生…江の島

●球技会週
10月20日(月)～24日(金)
一～三年…ドッジボール
四年……ポートボール
五・六年…バスケットボール

●小羊会総会　10月27日(月)
四年生以上で集まり、小羊会(委員会)の活動を通してよりよい学校生活について考えました。

●学芸会　11月28日(金)
一・三年……合唱
五年………英語の詩
二年・四年…学年劇
六年………学級劇

中高部

体育祭 ―高三ダンス―

●体育祭　10月11日(土)
雨で開始が一時間遅れましたが、広々とした大学のグラウンドで無事に行われました。今年も優勝は緑の二組でした。

●楓祭
10月24日(金)・25日(土)
今年のテーマは「麗(うるわし)」でした。入場者は二日間合計で七〇二五名と大盛況でした。

●創立記念日礼拝
11月6日(木)
部長の先生方の式辞等を聞き、学院の建学の精神を再確認しました。

●収穫感謝礼拝　11月19日(水)
中学部でお米を持ち寄ってステージに置き、神から与えられた恵みに感謝しました。

●中学部球技会　11月21日(金)
中1の部は3組、中2・3の部は中3−3が総合優勝しました。

大学 大学院

かえで祭の模擬店は繁盛？

〈大学〉

●オープンキャンパス
10月11日(土)、11月22日(土)

●公募制推薦入試、同窓生子女枠特別推薦入試
10月26日(日)
「同窓生子女枠」とは本学の内容を充分に理解している同窓生の子女を受け入れる特別入試制度です。

●かえで祭
11月2日(日)・3日(月)
今年は二〇回目を迎えテーマは、「Color～それぞれが描く色～」。3日には、第二回の「保護者と教職員の懇談会」が開催されました。

●指定校推薦入試
11月8日(土)

〈大学院〉

●学位授与式、入学式、オリエンテーション
9月20日(土)

聖書の言葉

さて、モーセの律法に定められた彼らの清めの期間が過ぎたとき、
両親はその子を主に献げるため、エルサレムに連れて行った。

ルカによる福音書　二章二二節

「聖母子」　上野泰郎作

この絵は小学部講堂ホワイエにあります。学院保護者でもあられた日本画家、故上野泰郎先生が、2000年の小学部新校舎落成の記念に寄贈してくださったものです

幼子イエスを連れ、両親は生まれて四〇日目の儀式のためにエルサレム神殿に向かいます。それは律法の定めに従ったことで、イスラエルの他のどの家族もすることではあるのですが、マリアとその腕の中の幼子に限っては別の意味がありました。「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された」（ヨハネによる福音書　三章一六節）この幼子は神の最愛の独り子であるのです。神は私たち人間を愛するあまり、その救いのためにわが子を捧げられました。これに応えた行いが、ヨセフとマリアによるイエスの奉献です。この後エルサレム神殿で出会った老預言者から、マリアはやがて降りかかるイエスの受難と、母の悲しみを告げられます。

上の絵は、小学部では日頃見慣れている絵ですが、神のあまりに深い愛が籠められていることに改めて気づかされます。

小学部部長　山本香織

英和探訪⑤　保健センター（本部）

先生や事務職員の健康を見守る、「保健センター」を訪ねました

「血圧が高い…」「おなかが出てきた。メタボリックシンドロームかもしれない…」大人ならではの健康の悩みがあります。そんな時、東洋英和の先生や事務職員は六本木校地では保健センター本部を、横浜校地では保健センター分室を兼ねている健康相談室を利用できます。

六本木校地の本部・大学院棟にある保健センター本部のドアを開けると、いつも元気な保健師の井上佳代さんが迎えてくれます。ちょっとした心配や疑問を投げかけると井上さんの的確なアドバイスが返ってきます。さらには毎月一回「保健センターだより」が教職員にメール配信され、「インフルエンザ」や「食中毒」などタイムリーな健康情報が伝えられます。保健センターではアロマライトがともる中、休養室も用意され、プライバシーも保てるように談話室もあります。井上さんは「様々なストレスを抱える現代社会の中で、英和の先生方や職員の方々も心身ともに多かれ少なかれ疲れていたり、悩んだり迷われたりしています。『こんなこと聞いてもいいのかしら？』などと思わずに身近な存在として気軽に保健センターを利用していただきたいです」と語っています。実際に会って話をすることから解決できることも多いそうです。リラックスした雰囲気の中でお話をしていると、普段のコミュニケーションの中から教職員の健康状態を把握し、しっかりサポートしてくださっている井上さんの視線がなんとも頼もしい限りでした。

具合が悪い時、横になれるように休養室もあり、廊下では血圧測定器が常時使えます

保健師の井上佳代さん（左）と事務の伊藤麻紀子さん（右）が明るく迎えてくれます

英和の植物通信

～目を近づければ楽しさ無限～ No.15

絵・文・写真：中池 敏之
（大学非常勤講師：博物館概論等担当）

ゴンズイ（横浜キャンパス）

ゴンズイ（権萃、野鴉椿）

寒いこの時期の野山での楽しみの一つに、木々の芽の観察がある。遠くから眺めていてはその楽しみは味わえない。目を芽に近づけると、芽の表情を感じとることができ、色々と楽しい想像が生まれる。

ゴンズイ、面白い名前（和名の語源は諸説あり）を持つこの木の芽は、東洋英和のスクールカラーのガーネット色をして、枝の先に一つとその基部に二つのふっくらとした姿をしており、まるで仲良しの三人姉妹といったおもむきで春を待っている。この芽を眺めているだけで、私は楽しい気持ちになる。

一般公開行事のご案内

第7回東洋英和女学院大学 オーケストラ部定期演奏会

■日時　2月11日（水・祝日）
13：30（開場）14：00（開演）
■場所　西公会堂（横浜駅より徒歩約10分）
■曲目　リュートのための古風な舞曲とアリア／レスピーギ
カルメン／ビゼー　他
■入場無料

第13回　器楽科・ピアノ科発表会

■日時　3月14日（土）13：00～16：00
■場所　新マーガレット・クレイグ記念講堂
■出演　中高部器楽科・ピアノ科生徒

同窓会より

同窓会クリスマス礼拝報告

十二月六日、同窓会クリスマス礼拝を中高部小講堂で守りました。本学院小学部部長山本香織先生の奨励を伺い、中村昌枝さんの指揮、片野裕美さんのピアノで沢山の賛美歌を歌いました。ご奉仕下さった三人は卒業生。一同の心が一つに結ばれ英和の同窓会らしいクリスマス礼拝でした。その後、中高部集会室で同窓会特製のフルーツケーキを頂きながら歓談し、卒業生お手製の品物が並ぶミニ・バザーでのショッピングを楽しみ、心の中に暖かい灯がともされたひと時でした。

後援会より

父親たちの野尻

奥深い自然が守られた野尻湖のキャンプサイト。毎年七月、このオープニング準備に四、五〇人のお父様が、先生方のお手伝いに馳せ参じます。プール設営という大作業から、ボートやヨット、キャビンの清掃補修など作業は多岐にわたります。かなりの仕事ですが作業後の楽しみもあります。ヨット、キャンプファイヤー、バーベキューなど子供たちと同じ体験をさせて頂けるのです。そして朝の清々しい湖畔での礼拝に心癒されます。

この「父親有志の会」は、現役に留まらずOGのお父様も大勢参加され、仲間の輪は年々大きくなっています。

娘が同じ学院にお世話になっているという唯一の共通点が最大の絆となって、今や野尻は父親たちにとっても「大切な思い出の場所」になったようです。

東洋英和女学院学院報　楓園　第55号

発行日：2009年2月9日
編　集：学院報編集委員会
発　行：学校法人 東洋英和女学院
東京都港区六本木5-14-40
TEL 03-3583-3325
メールアドレス
koho@toyoeiwa.ac.jp
ホームページアドレス
http://www.toyoeiwa.ac.jp